



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2021年4月号

九州産業大学が滑り止めにならない

保護者面談の際に大学の話になるとみなさん声を揃えて「私たちの時とだいぶ違いますね」と話されます。西南大学が学部により差はあるものの熊本大学レベルになっていたり、福岡大学が佐賀大学レベルになっていたりするからです。以前も糸島高校の先生が大学受験のことで悩んでおいででした。以前であれば糸島生も九州産業大学を滑り止めとして受験することで何とか進路を確保できていたのが、大学受験の難化により、九産大がなかなかすべり止めにならないとのことでした。女子の場合は女子大があるからまだ良いものの男子は本当に厳しいとのことでした。

その理由は、大学の合格人数がどんどん減らされてきたからなのです。なぜ減ってきているのでしょうか？それは国の財政悪化により、大学への補助金が減ってきているからなのです。

もともと、私立大学には国から補助金が出ています。その補助金ですが、昔はほぼ全員分出ていました。なんと1973年度は定員の7倍までは出るようになっていたそうです。定員が1000人の場合は7000人まで補助金が出ていたそうです。これはこれで問題ありとは思いますが、現実にこんな補助金が出ていたわけです。

しかし、2013年度には収容定員8000人

上の大規模大学では1.20倍それ以外の大学では1.30倍まで引き下げられました。この基準が16年からさらに引き下げられ、18年度には「大規模大学は1.10倍、収容定員が4000人から8000人の中規模大学は1.2倍となりました。その後はさらなる引き下げは行われていませんが、この事は大学入試改革以上に衝撃的な出来事でした。

これだけではわからないという方のためにもっとわかりやすく書くと、私立大学の場合、国立大学や上位の私立大学の滑り止めになれることもあり定員よりも多めに合格を出します。定員割れは経営を大きく圧迫するために絶対避けなければならないのです。以前は、多めに合格者を出してもすべて補助金が出ていた（7倍まで出ていたわけですからほぼ無限）のである意味10000名の大学であれば1000名の体制なのに13000人の合格者を出せばある意味ほろ儲けでした。しかし、それが大学間の格差を生み上位校はほろ儲け、下位校は定員割れで大赤字になっていたのです。

今は1.10倍なので13000人の合格者を出すと2000人分の補助金がいなくなってしまうのであるべく11000人で抑えなければならなくなってきたというわけなのです。

例年より合格者数が減るわけですから、必然的に

合格は難しくなっているのです。ちなみに一例ですが、2016年と2018年では立命館大6988人、法政大5591人、関西学院大3863人、早稲田大3444人、明治大2928人、関西大2882人、東洋大2434人、立教大2380人、専修大2284人、明治学院大2235人、青山学院大2191人。そのしわ寄せは当然、福岡の福岡大学や西南大学、九産大にも現れてきています。

その後は、定員厳格化はストップしていますが、この影響があまりにも大きかったためか、安全志向の高まりで早慶等の難関私立の受験者は激減し、難易度は少し軽減されました。しかしその分中堅私立がさらに難化する予想されています。

それに拍車をかけているのが推薦等による学生の早期困い込みです。今では私立の入学者の56.5%が推薦等による入試で、一般入試で入学する学生は全体のたったの43.5%にすぎないのです。

全体のパイが小さくなった上に、推薦の比率が高くなっているから難易度もさらにアップしているのです。下位校や地方はさらに遅れてくるので、まだまだ九州の私立の難易度は上がりそうな感じです。

受験する前に既に56%の生徒の入学が決まっているというのは驚きですよ。少子化で大学全入時代と以前は言われていましたが、まさかこのような激戦になるとはだれも予想できませんでした。このような状況もあり、九州でも早めに私立校に進路を決めるという動きが出てきています。

やる気相談室

倍率

公立高校の志願倍率が2極化しています

1.9となっています。

先日、保護者面談の際に高校受験の話になりました。その際に「糸島高校は近くに駅が出来て難しくなってきたらいいんですけどね？」という質問をいただきました。

確かに以前はそのような話が噂されていて、3年前は糸島高校の倍率はピークを迎えていました。しかしその後、若葉高校が共学になると倍率が低迷し始めたのです。

- 平成28年から今年までの5年間の糸島高校の志願倍率の推移は1.34↓1.27↓1.45↓1.10↓1.08となっています。ちなみに修猷館高校は1.71↓1.79↓1.71↓1.58↓1.65、城南高校は1.92↓1.72↓1.60↓1.64↓1.67、筑前高校は1.44↓1.43↓1.26↓1.10↓1.11

この結果を見ていただくと上位校の修猷館、城南はほぼ横ばいで高止まりしていて、中堅以下の筑前、糸高が大きく下がっていることがわかります。

糸島高校は3年前に1.45倍とピークを迎えましたが、翌年に福岡大学の付属若葉高校が共学になったこともあり1.10倍に下がってしまいました。それと同時に筑前高校の倍率も1.10倍に下がっていったのです。

ここで言うことは城南や修猷館といった上位校は若葉の共学化の影響を受けなかったのに、筑前や糸高は大きな影響を受けたということです。これは、糸高や筑前から福大を受験するよりも若葉に進学してからエスカレーター式に福大に進学した方がいいという判断を多くの方がしたということなのです。

また、年収に応じて私立高校進学者の家庭への支援金の額が増額されたことも私立高校への進学を後押ししています。前の

ページで紹介した私大の難化を背景に若葉だけに限らず、福大付属の大濠高校や西南学院大学付属西南高校や中村学園大学付属の中村女子高校や中村三陽高校、福岡工業大学付属の城東高校へ進学する人も増えてきています。

上位校の生徒は一般受験でも九州の私大なら合格できる可能性が高いこともあり、さほど私立に流れることが少ないもの、中堅以下の高校はともかく私立に受験者を奪われていきそうな気がします。公立高校の先生達もかなり脅威に感じておいてなのではないでしょうか？

大学の授業料も国立と私立の格差がどんどんなくなってきました。今後はさらにその差はなくなっていくことが予想されますし、高校の公立と私立の格差はなくなってくるのではないのでしょうか？

今の小学生が大学受験をする頃にはどのような受験になるのか本当に予測できない状況です。あらゆる場合に備えて対応していきたいものです。

書籍紹介 小学校1年で国語辞典をえるようにする30の方法 深谷圭介著

この本は、YESの速聴読の授業で導入している辞書引き学習を生み出し、今では日本だけでなく世界中で辞書引き学習を広めていらっしゃる深谷氏の本です。20年以上も前に教師用として発売され今も売れている本なのです。教師用ですが保護者様が読んでわかりやすく使いやすい本なのでお勧めです。塾生にもとても効果が出ているので自宅で実践されるといいと思います。深谷氏の最新刊では、こんなデータも紹介されています。首都圏の辞書引き学習実施校と未実施校との3年間にわたる調査では、国語学力調査の基礎力・活用力ともに未実施校よりも実施校の方が平均点で10ポイント以上高かったそうです。また、中国地方のへき地小学校でも未実施校が4.4%の達成率だったのに対し実施校は9.3%の達成率でした。このテストは2年生相当の語彙力テストであったため9.3%の生徒が2年生レベルの語彙力だったのです。小1に辞書？って思われるかもしれませんが、何にでも興味を示す時期だからこそ効果的なのです。私も始める時は半信半疑だったのですが、やり始めたら効果にびっくりしました。子供達にとって辞書は言葉のおもちゃ箱なのです。もし、やり方がわからない場合はこちらでサポートもさせていただきますのでぜひ実践してみてください。

